



地域通信

しらかばの樹

URL <http://www.kutchan.hokkaido-c.ed.jp>

第95号

2026年 広報1月



倶高新聞局！全道大会＆全国大会へ！

新聞局顧問 矢内 亮

新聞局は、10/8-10に網走市のオホーツク・文化交流センターで行われた第69回全道高等学校新聞研究大会に参加しました。最終日に行われた全道高等学校新聞コンクールの表彰式では、今年の3月に発行した再刊号の地域と学校の歴史を掘り起こした特集が評価され、手書き・ワープロ部門で特別賞を受賞することができました。

また、北海道高等学校文化連盟新聞専門部からの推薦で、来年度の7月に秋田県で開催される、令和8年度全国高等学校総合文化祭に本校の新聞局員2名が参加することになりました。

今年度より本格的に活動を再開した新聞局は、これまで11号の新聞を発行しました。1枚の紙面を作るのに、多くの作業工程があります。そのため、編集が発行予定日に間に合わないなど、トラブルは多々ありましたが、局員一丸となってここまで活動してきました。また、その中で取材した方々から受け取った熱量や想いを、記事にして読者に伝えることにやりがいも感じました。

これからも、よりよい新聞を読者の皆様にお届けできるように努力を続けていきますので、倶知安高校新聞局の応援をよろしくお願いいたします。



高校DXハイスクール 島根県学校視察報告

教諭 大川 恵、瀬尾 武嗣

本校が令和7年度DXハイスクール（デジタル技術を活用した学びの推進）に採択されたことを受け、生徒たちの学びを一層充実させるため、島根県の大東高校と三刀屋高校へ視察に行ってまいりました。

両校は、学校・企業・地域が協力する仕組みである「雲南コミュニティハイスクールコンソーシアム（UCHC）」の下、DXの取り組みを従来の教育と効果的に結びつけ、教職員が一体となって事業の推進を行っていました。企業や大学との連携がうまく機能しており、外部の専門家が授業を担当し、教職員がサポートに回るなど、役割を分担することで質の高い教育と教員の負担軽減を両立されていました。

また、探究活動を学びの柱とし、データサイエンスへの興味を高め、地域に貢献できるデジタル人材を育てるという目標が明確に反映されていました。その実現のために、地域の方々为学校の存続をかけて生徒たちの探究活動を熱心に支える姿勢を持って、高校の教育活動に深く関わっていました。

具体的な実践としては、役場と連携してドローンを使った熊対策の検討や、「雲南メイカソン」と銘打って障がいを持つ方や医療福祉の専門家と連携し3Dプリンターで福祉用具を製作するなど、地域課題に挑む先進的な取り組みを拝見しました。

今回の視察で得た「大学・企業・地域と連携し、デジタル環境を活かす」という貴重な経験を、今後の本校の教育活動に活かしてまいります。

ボランティア同好会 善行賞受賞報告

ボランティア同好会顧問 川本 賀信

この度、本校ボランティア同好会が、日頃の町内での積極的な活動を評価していただき、11月29日に倶知安町より善行賞の表彰を受けました。これは、生徒たちが地域の一員として社会に貢献しようと取り組んできた成果で、大変光栄に思います。今年度、以下の活動に参加しました。

5月	絵本館祭り：絵本の読み聞かせ、工作体験補助
8月	じゃが祭り：子ども縁日のお手伝い、倶知安中学校：学習サポート ひらふ祭り：ゴミの分別やイベント補助
9月	特急ニセコ号に乗車：倶知安町のPR活動や、倶知安町名菓等の車内販売 防災マスターへの道：消防ブースでの活動
10月	くっちゃんハロウィン・イベント：子ども達にお菓子の配布、交通整理
12月	馬そり体験イベント：乗車補助、絵本館のクリスマス：イベント補助

*その他、年間通じて、ポケラボの子育て支援活動“ココカラ”への参加

今年度は地域の皆様より数多くのご依頼をいただき、生徒たちが貴重な社会経験を積むことができました。今回の受賞は、日頃から私達の活動を温かく見守り、多くのご支援や活動の機会を与えてくださった地域の皆様の支えがあつてのものです。

私達ボランティア同好会は、これからも地域の皆さまの期待に応えられるよう、感謝の気持ちを忘れずに、積極的に、そして元気に活動してまいります。お手伝いの機会がありましたら是非倶知安高校へお声かけください。今後とも、私達の活動にご理解とご協力をどうぞよろしくお願いします。



特急ニセコ号での活動

じゃが祭りでの活動

馬そりイベントでの活動

演劇部19年ぶりの快挙！全道大会進出！

演劇部顧問 柴野 嵩大

「舞台で会話ができることが本当に嬉しかった」。全道大会での上演を終えた部長の清水 柁太君が語ってくれたこの言葉には、一通りならぬ意味が込められていました。一人芝居以外の選択肢がなかった昨年は部員1名で存続の危機にありましたが、諦めずに毎日部室に通い、演劇の楽しさを伝え続けた結果、今年は、共鳴した後輩諸氏を仲間にて得て、部員総勢11名、役者5名で舞台に立つことができました。

AIに問えば答えが即座に得られる時代に、「誰かのための一時間を自分の何千分という時間をかけて作っていく」という非効率の極致に身を置き、引き換えに数十秒の拍手と何百かの笑顔をもらう。そうした営みの中で部員達は自己表現と人の心を動かす楽しさを深く知り、計り知れない豊かさを学びました。

清水君の背中を見て演劇に携わり、肩を並べて舞台に立ち、そして今バトンを手渡された2年生達を中心とした演劇部はこれからどのように大きくなっていくのでしょうか。なお全道大会で上演した演目のリバイバル上演を2月下旬に倶知安町公民館で予定しております。その際はどうぞご自身の目で彼らの成長をご覧ください。日時が決まりましたら、倶知安高校HPにてお知らせさせていただきます。ご来場お待ちしております。

